

各 位

2017年4月6日
株式会社リットーミュージック

ストラト、テレキャス、ジャズマスター… 鳴らせ、フェンダー新時代。
『ギター・マガジン 2017年5月号』は、Fender 総力特集！



インプレスグループで音楽関連の出版事業を手がける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役：古森優）は、音楽専門誌『ギター・マガジン 2017年5月号』を2017年4月13日に発売します。

『ギター・マガジン』の詳細はこちら <http://www.rittor-music.co.jp/magazine/gm/>

■表紙：長岡亮介（ペトロールズ）／田淵ひさ子（toddle）／Jean-Ken Johnny（MAN WITH A MISSION）／加藤隆志（東京スカパラダイスオーケストラ）

■Special Program

鳴らせ、フェンダー新時代。

1986年～現代にいたるまで進化の歩みを止めない革新者の近代史。

創業以来、数多くのギタリストを育ててきた世界有数のギター・メーカー、フェンダー。テレキャスターやストラトキャスター、ジャズマスターなど“エレクトリック・ギター”の

ひとつの完成形”と言える普遍的なモデルを生産し続けているその一方で、時代を創り、次代を牽引する存在としてギター／ベースという楽器をネクスト・ステージへと進化させるべく、さまざまな形で挑戦を続けている。2017年1月には、長きにわたりフェンダーを支え続けてきた“アメリカン・スタンダード”が、こだわりの新要素を加えられ“アメリカン・プロフェッショナル”へと生まれ変わった。新時代の到来を予感させる大きな転換点と言えるだろう。改めてフェンダーの“現在”を見つめ直してみたい。

◎Fender Professional Talk～プロフェッショナルが愛する理由。

Fender Professional Talk

特集の冒頭を飾るのは、表紙にも登場した4人のプロ・ギタリストによるフェンダー・トーク。テレキャスターで育った長岡亮介、生涯の相棒＝65年製ジャズマスターと出会った田淵ひさ子、現代のジャガーで轟音を鳴り響かせるJean-Ken Johnny、愛器65年製ストラトキャスターで世界を回る加藤隆志の4人に、フェンダーとの出会い、ブランドの魅力などを存分に語ってもらった。

取材：藤原 雄平、田淵 真由美

プロフェッショナルが愛した理由。
プロ・ギタリストたちの選択＝フェンダー
長年愛され続ける理由を彼らの言葉から探る

Ryoosuke Nagaoka
Petrois

Hisako Tabuchi
bloodthirsty butchers / toddle / LAMA

Jean-Ken Johnny
MAN WITH A MISSION

Takashi Kato
Tokyo Ska. Parade Orchestra
So many tears / LOSALLOS

楽チンなギターには色気や音楽の魅力は宿らない。——長岡亮介

フェンダーがなかったら音楽の幅が狭くなっていたかも。——田淵ひさ子

ジャガーハ尖ッテイルイメージで“感情ノ伝導率”ガスサマジイ楽器。——Jean-Ken Johnny

このストラトキャスターに出会った時、“生涯の1本にめぐり会えた”と思った。——加藤隆志

特集の冒頭を飾るのは、表紙に登場した4人のプロ・ギタリストによるフェンダー・トーク。テレキャスターで育った長岡亮介、生涯の相棒＝65年製ジャズマスターと出会った田淵ひさ子、現代のジャガーで轟音を鳴り響かせるJean-Ken Johnny、愛器65年製ストラトキャスターで世界を回る加藤隆志の4人に、フェンダーとの出会い、ブランドの魅力などを存分に語ってもらった。

Ryoosuke Nagaoka | Petrois

American Professional Telecaster

最近ストラトを持つたら逆にビザールって言われる。

楽チンなギターには色気や音楽の魅力は宿らない。

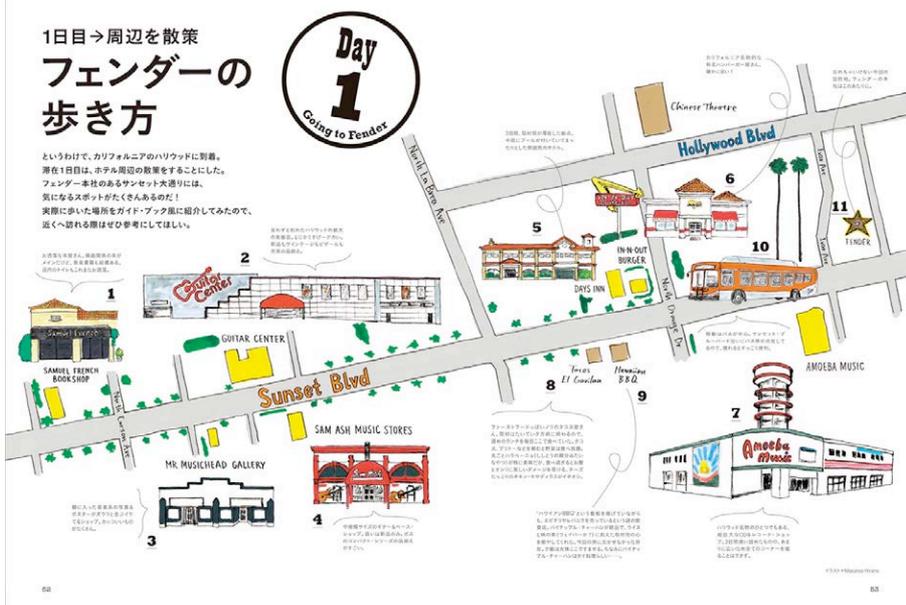
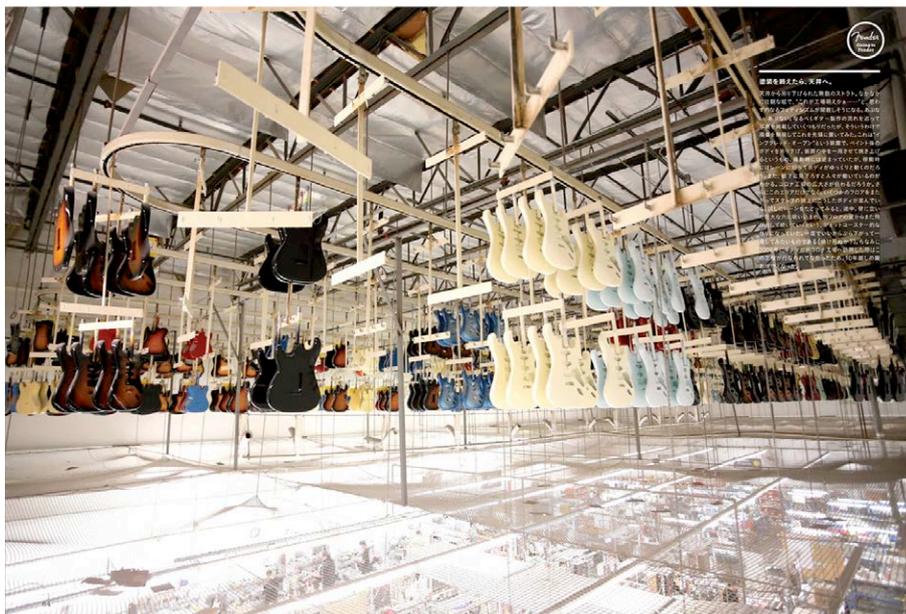
Hisako Tabuchi
bloodthirsty butchers / toddle / LAMA

1965 Jazzmaster

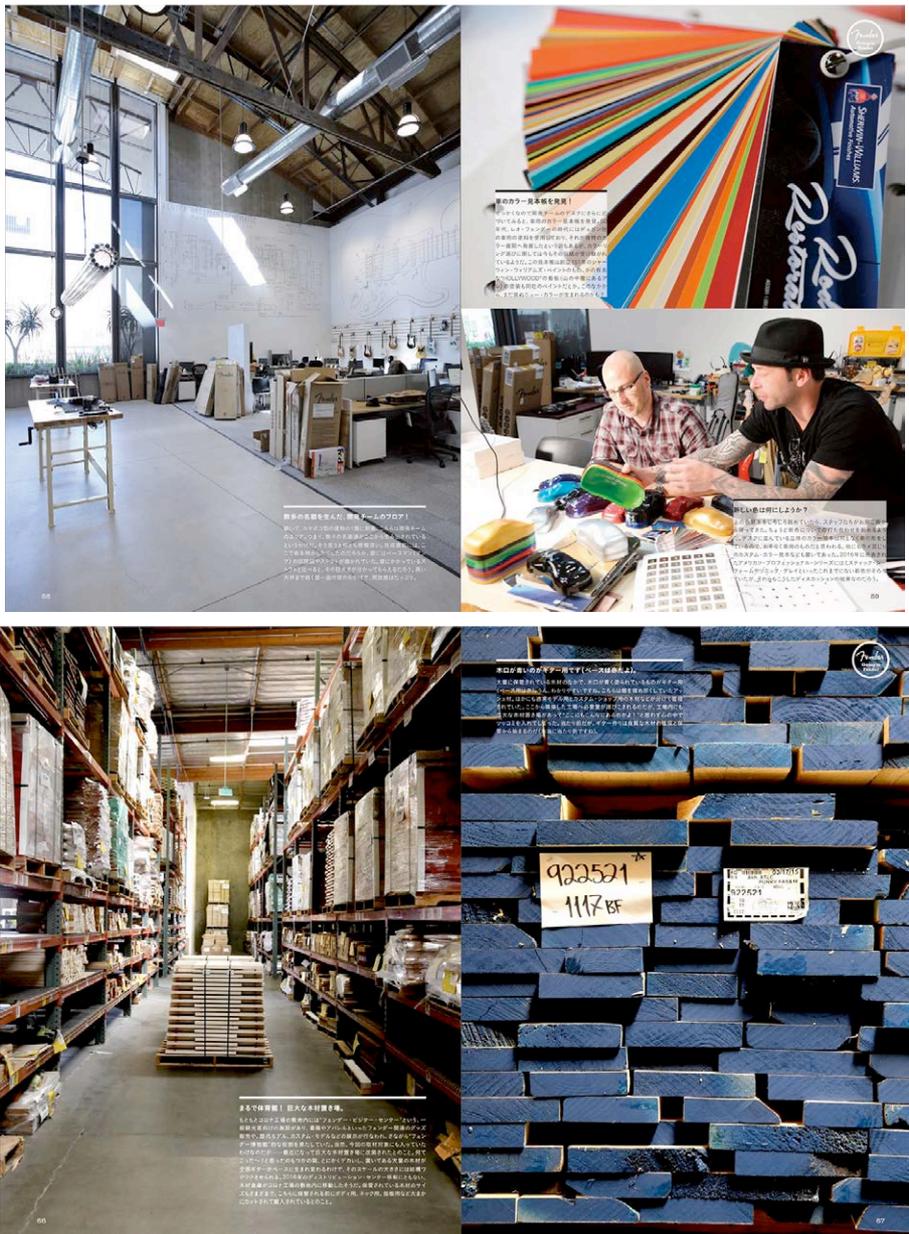
ジャズマスターを使う人が増えてフェンダーも力を入れていると思う。

◎ギタマガ編集部、フェンダーへ行く

カリフォルニア探訪記



最近のフェンダーは新シリーズや新色が展開されているし、聞けばオフィスが新設され、工場も模様替えが行なわれたという。現在進行形の時は気がつかないものだが、今はのちの歴史に残る大きな転換期なのでは？ これは現地に行くしかない。そうだ、フェンダーへ行こう！ 本邦初公開となるハリウッドの新オフィスと86年以降の生産拠点でありリニューアルしたコロナ工場への潜入レポートを敢行した。過去最大クラスで贈る工場の内部写真は圧巻！



そのほか、86年以降に登場したモデルの進化の歴史を追った近代史、注目の最新シリーズ“アメリカン・プロフェッショナル”の紹介を通して、“フェンダー”の魅力を掘り下げていく。

■Special Program

追悼ムッシュかまやつ

またひとり、偉大な音楽家がこの世を去ってしまった。ミュージシャンとして、そしてギター弾きとしても非凡な才能を持ち、常にユーモアを忘れず、古今東西の音楽を愛した巨人、ムッシュかまやつ。精一杯の哀悼の意を捧げ、彼の音楽人生を振り返っていきたい。



1. 日本における
“自作自演”の
先駆けだった。

当時まだ有名でなかった
ビートルズに
いち早く注目した男

井上堯之がザ・スパイダースのメンバーとして活躍する中で、1966年にビートルズのアルバム『マジカル・ミイラ』を聴いた。当時まだ有名でなかったビートルズにいち早く注目した男。...



【スパイダース・アルバムNo.1】

「ザ・スパイダース」のデビューアルバム。...

【アフリカ】

ザ・スパイダースのアルバム『アフリカ』のジャケット写真。...

【ノーノーボーイ】

ザ・スパイダースのアルバム『ノーノーボーイ』のジャケット写真。...

井上堯之は、当時まだ有名でなかったビートルズにいち早く注目した男。...

◎Interview 井上堯之／山岸竜之介

かつて、ザ・スパイダースのメンバーとしてムッシュと一緒に音を鳴らし、黄金ギター・コンビを成した井上堯之。2009年に引退を表明して表舞台から距離を置いているため、ムッシュの訃報に関する報道陣の取材はすべて断ったという氏だが、本誌だけにその胸の内を語ってくれた。また、最晩年にステージを共にし、ムッシュが愛用したスタインバーガーを託された山岸竜之介も、氏の魅力を語っている。

《雑誌》

『ギター・マガジン 2017年5月号』

表紙：フェンダー新時代。長岡亮介／田淵ひさ子／Jean-Ken Johnny／加藤隆志

発売：4月13日

定価：（本体762円＋税）

仕様：A4変型判／244ページ

詳細はこちら <http://www.rittor-music.co.jp/magazine/gm/>

【株式会社リットーミュージック】 <http://www.rittor-music.co.jp/>

□所在地：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング □設立：1978年4月10日 □
 資本金：1億円 □決算期：3月31日 □従業員数：81名（2016年3月31日現在） □代表取締役：古森優 □
 事業内容：音楽関連出版事業

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 宣伝広報
 Tel: 03-6837-4728/ E-mail: pr@rittor-music.co.jp